

キャッシングカードが危ない

「これを改造すると、キャッシングカードの磁気情報を読み取るスキマーになりまし」

東京都港区にあるNPO法人日本情報安全管理協会のオフィス。伏見正浩理事がそういって見せてくれたのは、手のひらに収まるサイズの細長いカードリーダーだ。中央にカードを通すスキマーにカードを通して読み込んだ磁気情報を、パソコンの専用ソフトで読み取る。カードリーダーと同じような形をした磁気リーダーをパソコンに接続。別人のカードをライターに通すことで、情報を転写して偽造カードを作製する。これが典型的なスキミングの手口だ。

昭和六十二年以前に作られたキャッシングカードの場合、磁気テープに暗証番号が裸の状態でのっけていることが多く、カードをスキミングすれば一発で預金が引き出せるといふ。新しいカードの場合、暗証番号を入力する必要がある。警察庁は「①免許証の生年月日から推算する②ATMの背後から盗み見る③警察官を装い暗証番号を聞き出す④などの手口が見受けられる」と警告する。

「中」
 がついたスキマーを仕掛けた盗んだ情報を電波で飛ばし、近くに止めた車の中のパソコンに受信することもある。その場合、打ち込まれた暗証番号も盗める。これはすでに実験済みと驚きの手口を明かす。

驚きの手口 電波で盗聴 満員電車でも

非接触型のスキマーも出ていて、満員電車などで財布に入ったスキミングカードにかざすだけで、カードの情報を盗み取るのが可能という。欧米や東南アジアでは以前からキャッシングカードの

スキミング被害が問題になっていて、野分はATMが設置されている米国では、ATMのカードの入り口にスキマーが仕掛けられる被害も出ている。英国ではキャッシングカードを盗んだ場合も、外国人が絡んだ組織犯罪の可能性がある」と指摘する。ICカードに切りかえる手

最近の推測されるスキミングの手口



スなど身元の判明しにくい。ATMからの引き出しを頼む。引き出した金を集める係がいて、それが元縮の手に渡るといふ構図だ。

自衛策はあるのか。前出の伏見理事は「銀行側の対策が進まない限り、抜本的な解決法はない」と

前置きした上で、「暗証番号に誕生日を推測されやすい数字を使用しないのは基本。あと暗証記入を定期的に行い、被害を最小限に食い止める」と。被害にあった場合、銀行側に管理責任を問われる可能性もある」と注意を促している。(清家愛)

世界中で横行するキャッシングカードのスキミング犯罪だが、警察庁によると日本の摘発例はない。また、クレジットカードでは昨年、千葉県警がマレーシアで技術班にまわされる。偽造カードはスカウトマンの手に渡り、彼らがホームレ

「もう役割分担されていることが推測されたい」

「まず、学生がスキミングのアルバイトに雇われ、盗んだ情報を蓄積したメモリーが、偽造カードを作製する技術班にまわされる。偽造カードはスカウトマンの手に渡り、彼らがホームレ